

【北海道岩見沢東高等学校】学際領域学科（令和7年度設置）

目的

- ・外部の機関等の協力のもと学際的、複合的な最先端の学問分野の知見に基づく探究的な学びに取り組むことにより、予測困難なこれからの社会の持続・発展に寄与する知識、技能、態度を身に付けた生徒を育成する。
- ・総合的な探究の時間や学校設定科目を核としたカリキュラムマネジメント及び教育プログラムの開発に取り組むことにより、地域の期待に応える高校づくりを進めるとともに、本道における普通科新学科校のモデルとなる。

目標

- ◆ 予測不可能なこれからの社会の学際的、複合的な課題に対応し、社会の持続的な発展に貢献するため知識、技能、態度を身に付けた生徒の育成
- ◆ 日本や世界の諸課題を発見し解決に向けて行動し、社会に貢献しようとする生徒の育成

取組

- ◆ 「GANTOゼミ」（総合的な探究の時間）の充実（校内における総探委員会の設置）
- ◆ 新設校の学校設定科目「探究基礎」及び「探究応用」のカリキュラム立案
- ◆ グローバルな視野を育成する学びの構築
「台湾探究研修旅行（1年）」、「オーストラリア探究研修旅行（2年）」
- ◆ 新設校に向けた両校（岩見沢東・岩見沢西）による協議（連携と協働）
- ◆ 新設校の教育に関する地域への周知（学校説明会、岩見沢市再編統合検討協議会、中学校主催説明会）

学校コーディネーター

GANTOゼミの企画・運営、地域との連携・協働、コーディネーター研修

14の機関によるコンソーシアムの構築

【自治体、地元企業、大学、専門学校、国際機関など】

生徒に必要な資質・能力を育成するための最先端の学び、高度な学びをコーディネートしたり、連携・協力を進める上での助言を受けたりすることができる組織として編成する。
関係各界で活躍する本校同窓生の協力も得て、構成組織以外にも幅広く多くの連携・協力先を開拓する。

令和6年度の
【成果】及び【課題】

◆ 成果

- ・新設校のカリキュラム完成
- ・校内委員会、コンソーシアムの構築による「GANTOゼミ」の内容の充実（海外研修を含む）

○探究学習に対する生徒の自己評価（自己評価の低い生徒の割合）
R5 項目「成果・分析」15.1%
→ R6:「内容」8.4%、「分析」2.5%

- ・地域、高等教育機関等との連携強化
- ・南空知学区の全中学校への説明、岩見沢市での説明会の実施による新設校及び新学科についての周知

○探究発表に対する地域の評価（肯定的評価をした割合）
中学生:90.2% 保護者:70.9%

◆ 課題

- ・授業における探究的な学び、教科等横断的な学習の推進
- ・「DXハイスクール」指定校の活用
- ・地域への新設校及び新学科に関する情報提供、並びにより一層の理解の浸透を図るための継続した広報活動
- ・総合的な探究の時間と学校設定科目をより一層関連付けた系統的・発展的な探究活動の実施

【愛知県立惟信高等学校】地域社会学科（令和7年度設置）

【設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

地域に根差した探究活動を通して「実践力」と「自立型思考力」を育み、
自分、地域・日本・世界の未来を切り拓く力を育成する

【本事業の前提】

- ・既存の普通科も含めた学校全体の改善に向けて取り組む
- ・「総合的な探究の時間」の取組を基礎として、その上に学校設定教科を発展的に展開する2階建て構成とする

【新設学科「未来探究科」における学校設定教科】

「探究実践」（各学年1単位）

地域との連携に重点をおいて、社会人として自立し、活躍できる人間力の育成する

「学び探究」（各学年1単位）

学びの本質を追求することで学問の真の面白さを感じ、学びに向かう主体性を育む

【関係機関との連携・協働体制】

〈コンソーシアム〉

名古屋市港区役所 名古屋市港防災センター
名古屋市港区社会福祉協議会 NPO法人藤前干潟を守る会
松栄運輸株式会社 高木学区町内会 本校同窓会

〈運営指導委員会〉

愛知県教育委員会 愛知淑徳大学文学部教育学科准教授
名古屋市港区高木学区区政協力委員長 名古屋市立宝神中学校長
矢野建設株式会社代表取締役社長 NPO法人ライズエイジア代表理事

【令和6年度の目標】

事業進行のための土台作り

- ・事業の目標を教員間で共有

「総合的な探究の時間」の充実

- ・生徒主体の活動を充実
- ・フィールドワークの実施

カリキュラムの研究開発

- ・新学科のカリキュラム開発
- ・学校設定教科の年間指導計画の作成

授業改善研修の充実

- ・生徒の主体性に重点を置いた授業の実施

【取組状況】

- ・チーム体制による事業実施
- ・教員研修の実施
- ・訪問取材の実施
- ・成果発表会の実施
- ・惟信マルシェ（地域との合同発表）の実施
- ・カリキュラムの確定
- ・学校設定教科の名称変更
「総合探究」→「探究実践」
- ・年間指導計画作成
- ・通年での授業改善研修を実施
（授業参観、公開授業、研究等）

【成果と課題】

成果

- ・校内組織編成、プロジェクトチーム組成
- ・生徒主体型「総合的な探究の時間」の全学年での実施
- ・新学科のカリキュラム開発、授業細案の作成
- ・全教職員による授業改善の通年実施



授業風景



成果発表会



惟信マルシェ

課題

- ・「総合的な探究の時間」の系統的、段階的な内容の検討
- ・生徒の主体性を促す教員の役割の共通理解
- ・本校が設定する「目指す授業」に向けて教員間で意見交換できる機会の充実
- ・研究指定終了後に向け、自走できる体制、組織の構築

【愛知県立美和高等学校】地域探究科（令和7年度設置）

地域と自分の**美**しさを知り 人と人の**和**の力で 未来を拓く生徒を育む

“**美和高** Makes Innovators with Neighbors Dramatically”

～地域とともに未来を革新する人材を育てる～

【地域探究科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

地域と協働し、生徒を軸とした地域活性化に取り組むとともに、生徒の物事を肯定する力と不安定な時代を生き抜く力を育み、地域の未来の担い手を育成するカリキュラムを編成すること。

七宝焼のように 7つの輝く資質・能力の育成します

課題発見力 情報活用力 問題解決力 対話力 実践力 思いやり 豊かな人間性

美を知る 1年生

和をつくる 2年生

未来を拓く 3年生

総合的な探究の時間(12単位)

探究活動

学校設定科目(6単位)

フィールドワーク

教科等横断的な学び

教科を横断した探究活動の基礎となる知識

【令和6年度の目標】

【取組状況】

出前講座・フィールドワーク等の先行実施

- ・地域住民の出前講座の先行実施
- ・フィールドワークの先行実施
- ・改善点の記録と連携機関との共有

大学の講座の先行実施

- ・連携大学のオンライン講座等を先行実施
- ・ネットワーク環境の確認
- ・生徒の理解度及び改善点の確認



名古屋文理大学



星城大学

総合的な探究の時間の深化

- ・小中学校向けの高校生出前講座
- ・実践に向けたベースの完成
- ・評価方法の検討

職業人講話・観光探究・防災学習を実施

- ・商工会講師による職業人講話の実施
- ・観光協会訪問と情報発信の実施
- ・観光探究（観光協会10周年記念事業）実施
- ・地域住民による防災講話を含む防災学習の実施

高大接続連携協定締結

- ・名古屋文理大学との連携強化
- ・星城大学と新規の連携協定締結
- ・名古屋学院大学との新規の連携協定締結

大学訪問・共同ゼミの共同実施

- ・6大学への大学訪問の実施
- ・校内での地域探究ゼミの共同実施

中学校訪問・幼稚園及び小学校との連携学習

- ・地域探究発表会の実施
- ・地域と協働したフィールドワークの実施
- ・地元小中学校との連携協議の実施

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

令和6年度

年3回のコンソーシアム会議
年2回の運営指導委員会

【運営指導委員会】
外部有識者
愛知県教育委員会 等

指導・助言

コンソーシアム会議



美和高等学校

地域で学ぶ機会を提供

高度な学びの機会を提供

【コンソーシアム】あま市・大治町等
市役所 商工会 社会福祉協議会
NPO法人 教育委員会
中学校 小学校 観光協会 等

【コンソーシアム】東海地区の大学
愛知県立大学 愛知大学
名古屋文理大学 星城大学
名古屋学院大学 等

【成果と課題】

成果

例年実施している商工会講師による「職業人講話」に加え、「七宝焼講座」「観光講座」「防災学習」を実施するなど、これまでなかった分野において地域住民による講座のベースをつくることができた。また、名古屋文理大学に加え、星城大学・名古屋学院大学とも**高大接続連携協定**を締結した。2年生との共同ゼミを実施するなど、大学との連携も強化し、高度な学びへつなげる環境が整いつつある。

地元中学校との連携もスタートし、1年生全員が**地域の中学校を訪問**した。選択授業や部活動でも地域住民との連携や幼稚園・小学校・介護施設等への訪問を実施するなど、着実に地域で探究活動を行うための基盤ができている。

地域との交流の中で、**人前で臆することなく自分の考えを発信できる生徒が増え**、自信を持たせることができている。

課題

今年度の施行をもとに、来年度のカリキュラムを編成している。学期ごとの単元や教材を作成しているが、来年度新学科学科では学校設定科目と総合的な探究の時間を合わせて「探究」の時間が**5時間増加**することから、カリキュラムの進捗が想定とずれる場面が出てくることも予想される。予定外の状況に対して適宜修正を加えていくことが今後の課題である。



七宝焼講演会



地域住民との打ち合せ



観光協会10周年記念事業



地域イベントでの成果発表

【滋賀県立伊香高等学校】地域社会学科（令和7年度設置）

新学科
コンセプト

滋賀県北部地域の豊かな自然環境、森林資源などを活用し
「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育む
<ゼロ・カーボン・ハイスクール>をめざす

培う
資質能力

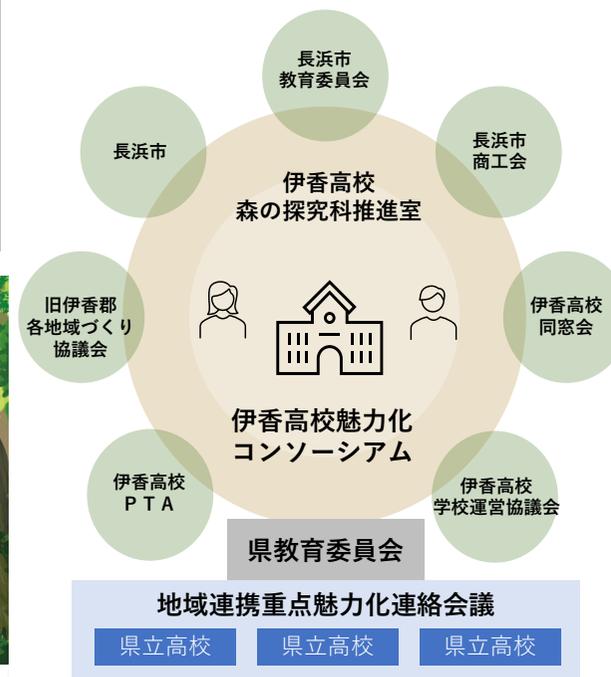
人や地域と協働し
新たな創造に向かう
課題解決力

自己の思いを伝えながら
他者の多様性を理解する
コミュニケーション力

夢を描き
進路目標を実現する
自己実現力

未知の困難に柔軟に対応し
あきらめない
レジリエンス力

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和6年度の目標

- 「森の探究科推進室」を中心とした研究開発
 - ・カリキュラムの具体化と先行授業の実施
 - ・コンソーシアム構築の充実を図る
 - ・ウェブサイトやSNSを活用した情報発信および学校説明会の実施

令和6年度の取組状況

- カリキュラムアドバイザーを加えたカリキュラム開発会議の開催
- 新学科設置に向けた先行授業実施
 - ・「森のキホン」「森の恵み」の先行授業を実施
- 地域をフィールドとした探究的な学びの実施
 - ・地域の人々や文化的資源を活用した多様な地域探究の学び
- 地域と伊香高のミライ創造コンソーシアム理事会と専門チーム会議の開催・コンソーシアム規約や体制整備および今後の方向性を議論、生徒募集専門チーム会議等を開催
- 県内中学生・保護者・中学校向け広報活動の実施
- 先進校視察(林業の学び)
- 運営指導委員会の開催

令和6年度の成果と課題

成果

- 新学科設置に向け、主に「森のキホン」「森の恵み」の先行授業を実施
- 地域探究を行う魅力的なカリキュラムの開発を目的として、類型での授業や「総合的な探究の時間」の中で様々な活動を実施
- コンソーシアム理事会と森の探究科運営専門チーム会議、生徒募集専門チーム会議の開催
- 「伊香高通信」「新学科PRチラシ」「新学科PRポスター」「下宿サポーター募集チラシ」の発行
- 令和7年度新学科設置に向け県内中学生・中学校向けの広報活動を実施、体験入学を年3回実施
- 伊香高等学校魅力化シンポジウムの開催

課題

- 学年、教科を超えた連携など、全体のカリキュラム・マネジメント
- コンソーシアム参画団体とのコミュニケーション、コンソーシアムと学校運営協議会の役割の明確化
- 新学科に関する具体的な学びの内容や卒業後の進路についての周知
- 全国募集に向けた準備
- 事業期間終了後の取組継続のための仕組みづくり



森の探究科 伊香高等学校

伊香高校「森の探究科」の学び

カリキュラムマップ

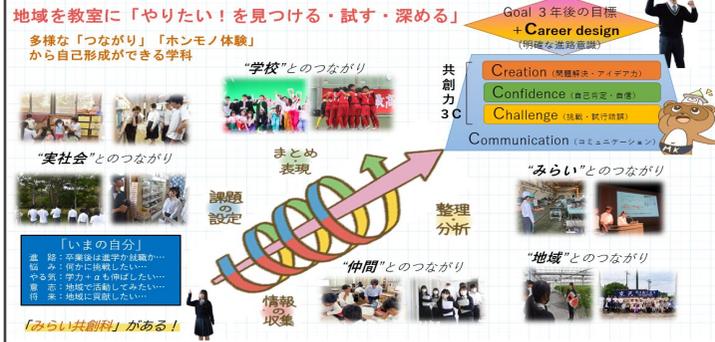
【滋賀県立守山北高等学校】地域社会学科（令和7年度設置）

新学科コンセプト

「地域をフィールドとした学び」と「ウェルビーイング」を柱に、多様性を尊重し、他者と協働しながらよりよい地域の未来を創造する

特色・魅力ある教育活動の概要

みらい共創科コンセプトマップ



培う資質能力

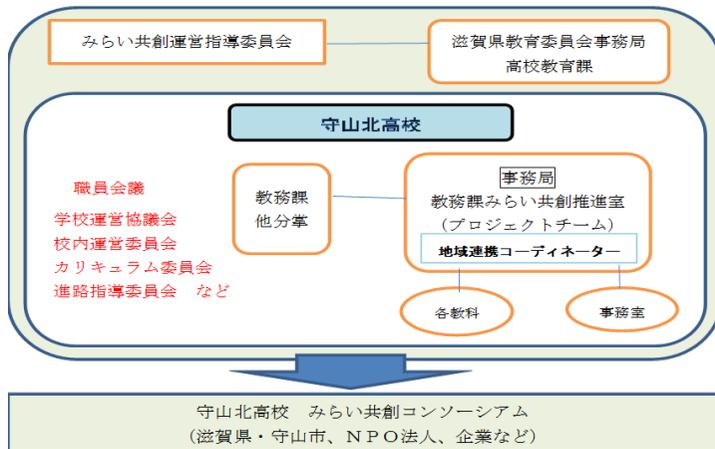
「人を想う心」を大切に、多様性を尊重する

自尊感情を育み、自らの個性や能力を存分に発揮する

起業家精神にあふれ、地域の課題解決に向け、自ら考え行動する

豊かなコミュニケーション能力を備え、他者と協働しながら地域の未来を創造する

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和6年度の目標

- 「みらい共創推進室」を中心とした研究開発
- カリキュラムの開発
- 新学科設置に向けた先行授業実施
- コンソーシアム構築のための調整および準備会議の開催
- 生徒・保護者・地域への情報発信

令和6年度の取組状況

- 定期的なカリキュラム、総探、環境整備、広報デザイン等の検討
- 学年・分掌と情報共有、教職員の意識向上、新学科推進の機運醸成
- 新学科設置に向けた先行授業実施
- 学校独自のルーブリック作成
- キャリアデザインイメージ図を策定
- 先進校視察
- コンソーシアム立ち上げのための各主体との調整および準備委員会を開催
- 運営指導委員会の開催
- 探究学習や地域連携の専用ルーム「MORIKITA BASE」を整備

令和6年度の成果と課題

成果

- 新学科設置に向けた先行授業の実施
- 「授業改革」により、普通科も含めた学校全体のブランディングを実施
- スクールミッションの3つの柱に照らし合わせた学校独自のルーブリックを作成
- 生徒のキャリアに関わる進路行事や普通教科での学びとリンクするよう「キャリアデザインイメージ図」を策定し、教職員全体で共有
- コンソーシアム立ち上げのための準備委員会を開催し、設置目的、運営体制、規約等について議論
- 学校全体が同じ方向を向き次年度の取組につなげていくため、「学校改革プラン」を作成
- 探究学習や地域連携の専用ルーム「MORIKITA BASE」を整備し、先行授業を実施
- 学校HPへの中学生向けQ&A掲載および更新マニュアルの作成
- 研究成果報告会の開催

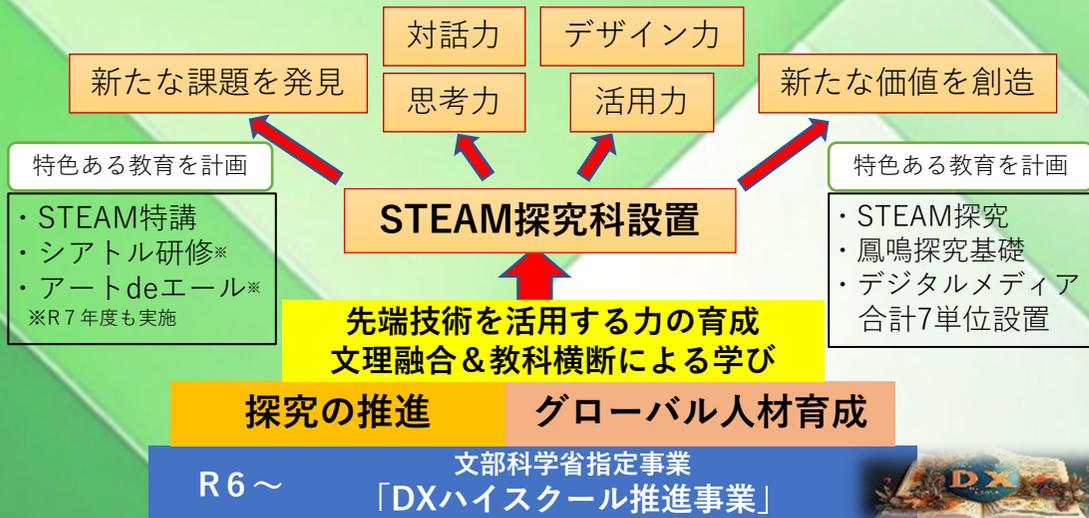


課題

- カリキュラム検討のための校内体制として、各教科の利害をこえた組織体制を整備
- 作成した学校独自のルーブリックを用いて生徒の現状を分析するとともに、カリキュラムの再構築にも活用する
- 構築したコンソーシアムの充実化
- 教職員向けの探究に関する研修や公開授業等、スキル向上とともに学校全体で探究に取り組む環境を整える
- ウェブサイトやSNSを活用した日常的な情報発信に加え、生徒の生の声を効果的に発信する
- 新学科の地域への広報や魅力づくりについて市教育委員会等の協力も得ながら検証
- 事業継続を見越した中長期的な目線での体制づくり

【兵庫県立篠山鳳鳴高等学校】STEAM探究科（令和6年度設置）

学科設置の目的と育成を目指す能力



令和6年度連携

(株)メットライフ生命保険
(株)日本ビジネスデータプロセッシングセンター
(株)植松電機
神戸大学
デジタルハリウッド大学 など



丹波篠山フィールドステーション
OB・OGによる支援（芸術・科学・技術・文学など）

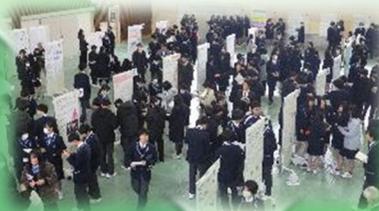
兵庫教育大学
丹波篠山市
市農都環境政策官
市教育委員会
市商工観光課
観光協会・商工会
三井物産フィナンシャルズ
ジェント
東京トレード
地元企業 など

連携体制の充実

令和6年度の目標と取組

- STEAM 探究科のカリキュラム実践
「STEAM 探究 I」1単位
「鳳鳴探究基礎」1単位
- STEAM 探究科のカリキュラム開発
「デジタルメディア」1単位
「STEAM II, III」
- 探究活動の推進
幅広い探究テーマに挑戦
全校発表会「探究Day I・II」の充実
- OB/OGによる支援
芸術・科学・技術・文学 等
- 保護者、中学生へ新学科周知
オープンハイスクール開催
PRTIMESによるプレスリリース
- STEAM 探究教員研修の実施
DX機器の活用研修
探究教育研修（リサーチエフエスの進め方）
- 先進校視察
県外施設及び高校を視察

成果と課題



全校生による探究Dayの開催

「DXで拓く新しい学びのカタチ」



西はりま天文台なゆた望遠鏡見学



シアトル短期語学研修



国際交流バスツアー

探究のプロセスの振り返り



アートdeエール
価値観の創造



生徒の変容

生徒アンケートで向上がみられた能力

- 論理的思考力（探究の思考過程で養成）
- 対話力（探究のフィールドワークで養成）

課題

- デザイン力の育成
試作・検証 探究内容をOUTPUTする力
- STEAMの視点
興味ある内容についてSTEAMの視点から課題解決を図る力（データ分析力等）
- テーマ設定の工夫
丹波篠山の地で篠山鳳鳴ならではのSTEAM探究を目指す

兵庫県立姫路飾西高等学校 STEAM探究科(令和6年度設置) (令和7年度 1年次40名・2年次40名)単位制



STEAM教育の考え方を踏まえた探究活動の取組

飛翔～さらなる高みを目指して～

令和6年度 取組・成果

令和7年度 展望

GCC
英語
ディベート

普通科

1年	2年
探究とは 先輩の活動 探究の意義 自己表現 最新機器 の活用 企業人の 考え方 ミニ探究	ブレイン ストーミング グループ ディスカッション 中間発表 フィールドワーク (全員が探究部) 中間発表

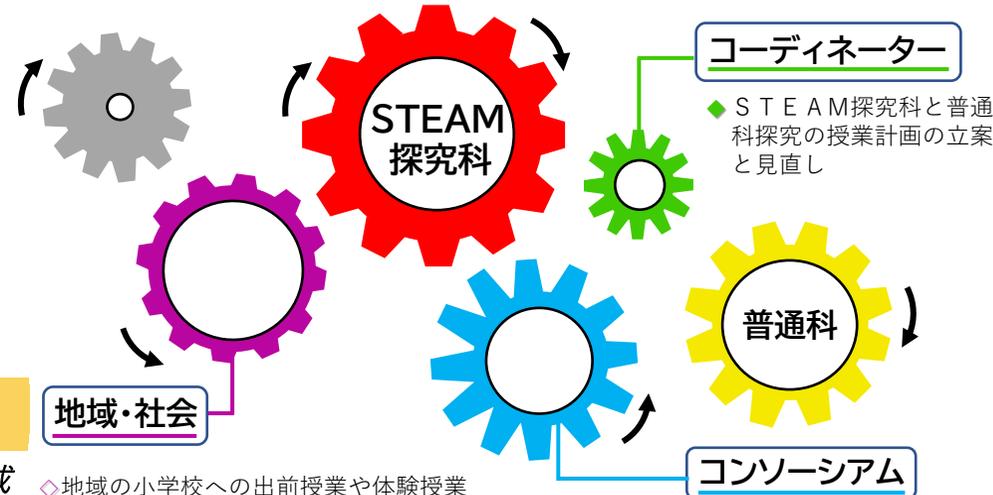
STEAM探究科

STEAMの考え方
最新機器の活用方法
企業人の考え方
(マジ目)
シンガポール研修
STEAMキャンプ
企業とのコラボ探究
(You me×モノ語り)

発表会
English with STEAM
発表会

SSC
自然科学
探究

STEAM教育を学校全体に普及するシステムの構築



コンソーシアム(企業・大学等)

探究成果発表会

1年 振り返り & 更なる探究へ

2年 My Road Map の作成

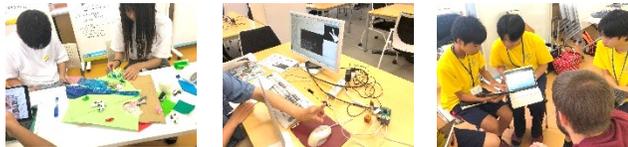
3年 進路決定へつなぐ

- ◇地域の小学校へのお出前授業や体験授業 (SSCからの継続)
- ◇社会が良くなるシステムの提案と検証
- ◇SDGsなどの課題への取組

STEAM探究科

次のステージへ ▶▶▶ 常に探究心のある人物形成へ

実社会やこれからの時代に想定される課題を見出し、文理の枠を越えた複眼的な視野や柔軟な発想で、他者と協働して課題解決や新たなシステム、価値を創造しようとする生徒の育成を目指す。



活動内容

最新機器の利用／プレゼン力の強化(プレゼンを多数実施)
研修での新しい学び(シンガポール・神戸)
企業・社会における課題から解決法を探る
企業の代表・大学教授による複数回の講演会
STEAM Day・オープンハイスクールでの生徒主体の体験活動実施
教科横断型授業の実施と英語による発表



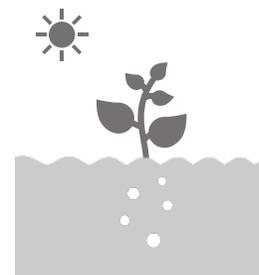
飾西探究 4 S 1年次では土台を築き、2年次では当たり前を疑う大胆な発想力を養うことが目標

Seeds(種)

1年 テーマ設定 (5つの種)

Soil(土)

1年 探究スキル 探究マインド



Sun(太陽)

教員
コーディネーター

Seedlings(芽)

2年 探究活動



兵庫型STEAM教育を実践

年次横断・縦断したカリキュラム(令和8年度より)の実施
企業や大学とのつながりを強化・他校との合同発表会を予定

学校教育目標:校訓「進取 友愛 節度」のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において、自らの未来を切り拓き、「地域共生社会」の担い手となる人材を育成する。
 育成を目指す資質・能力:地域や社会の課題を見出す力/正解のない課題に向き合い続ける力/協同して課題を解決する力

教員と生徒による 大学・地域・企業・行政

〔改編検討組織〕
未来会議

〔連携協力体制〕
コンソーシアム



地域
(コミュニティ)

行政
(まちづくり)



大学
(アカデミック)

企業
(ソーシャル)

学校と関係機関を繋ぐ
「学びのファシリテーター」
高校コーディネーター



未来会議で生徒と教員が協働し、高校コーディネーターが学校とコンソーシアムを構成する様々な関係機関を繋ぐ！

令和6年度の目標

生徒の主体性を育成する「チーム担任制」と「探究を軸とした教育課程」の構築

「探究」の基礎力を育成する学校設定科目「未来計画」の先行実施

生徒による学校運営への参画、先進校視察、広報

地域と世界をつなぐ「選択制海外修学旅行」の企画

令和6年度の取組状況

80人の生徒に4人教員がつく(内担任3人)ポッド制を導入し、より多面的に生徒を支援する体制を整える。面談はチーム担任がローテーションで行う。また、3年間で10単位の探究の授業を実施し、探究によるキャリア実現を見据える教育課程を構築した。

コンソーシアムと連携した「区役所連携型地域探究」で地域課題の解決と地域魅力発信を行った。地域起こし推進課が佐伯区の課題提供と概要説明を実施し、1年生全員が取り組んだ。

公募によって「未来会議」を立ち上げ、一般生徒が学校広報や先進校視察等に積極的に参加した。新学科の説明会も生徒の進行によって進められ中学生と保護者に大きなインパクトを与えた。

グローバルを体現するためにインドネシア・バリとオーストラリア・ケアンズの選択制修学旅行を立ち上げた。海外に行かない生徒は国内の沖縄コースも選択可能とした。

令和6年度の○成果と●課題

○「探究を軸とした教育課程」「未来会議による生徒企画」「チーム担任制」「選択制海外修学旅行」といった生徒の主体性を育てる仕組みを構築することができた。
 ○文部科学省での代表発表や多数の他校視察の受入れ、学科説明会やSNS等を通して、グローバル探究科としての新しい学校の在り方を認知してもらうことができた。
 ○コンソーシアムとの連携による地域探究を実施できた。

●主体性を引き出すためのマインドセットの浸透が必要である。来年度から生徒指導理念を刷新し、生徒も教員も主体的に考え、行動することを目指していく。
 ●「学びの自走」「ロールモデルとの出会い」等をキーワードとしたキャリアデザインの構築が急務である。
 ●チーム担任制に対応した学年職員室や探究学習を推進するためのラーニングコモンズを設置する。

【鹿児島県立種子島中央高等学校】ミライデザイン科（令和6年度設置）

目的

「デジタル技術」を活用し、社会生活を変革できる資質・能力を身につけ、次世代（デジタル社会）を創造する人材を育成する。

教育の概要

自ら課題を発見し、解決までの過程を筋道立てて構築する力（**デザイン思考**）と、課題解決のための有効的な手段として、目的に応じてデジタルツールを適切に選択・活用できる力（**デジタル技術**）を育成する。

育成する能力・資質

デザイン思考

- ・課題発見力
- ・課題解決力
- ・コミュニケーション力
- ・創造的思考力等

デジタル技術

- ・データ分析
- ・ICT機器の活用
- ・生成AIの活用
- ・情報発信力等



デジタル人材

令和6年度の取組・次年度の課題

学校設定科目「DX」の実施

【主な取組】

- ・学校設定科目「DX」の実施・内容修正
- ・2年次のカリキュラムの作成

【課題】

- ・研究3年次に実施する学校設定科目「データ数学」「コ・クリエイティブ音楽」「コ・クリエイティブ美術」のカリキュラムを策定
- ・デジタル分野のコンテストの精選
- ・シラバスの作成
- ・外部講師の選定、日程調整
- ・自治体・地元企業との連携強化

ルーブリックの開発

【主な取組】

- ・「デザイン思考」「デジタル技術」の習得が期待される資質、能力を明確化したルーブリックを作成
- ・専門家の助言を反映させた評価内容の検討

【課題】

- ・生徒の実態に応じてルーブリックの内容や評価の時期等を再考及び検証する
- ・デジタルツールを活用し、ポートフォリオの作成や記述式の評価の実施を行う
- ・AIを活用した力の見える化を進める

新しい学び「デザイン思考」について

ユーザー視点で課題を発見し、チームで共創しながら解決策を見いだす思考方法です。低コストかつ短時間でイノベーションを起こせる思考法として、変化が激しい現代において、多くの企業に注目されています。

デザイン思考5つのプロセス

- 共感** ユーザーが何を不満に感じ、何を必要としているのか見抜く
- 定義** ユーザーの潜在的な課題を定義する
- 概念化** 解決するアイデアやアプローチ手法を考える
- 試作** 時間やコストをできるだけ掛けずに、とりあえず一度、形にしてみる
- 検証** 試作品のユーザーテストを繰り返し、フィードバックされた意見をもとにブラッシュアップ

教科横断型授業の取組

【主な取組】

- ・生徒の探究的な視点を養うことを目的とした「教科横断型授業」の実施

【課題】

- ・職員研修等を通して、教科横断型授業の目的や利点等を職員全員で共有する
- ・教科横断型の学びの機会を増やし、様々な角度から物事を捉える探究的な姿勢を持った生徒の姿を共有する

職員研修の実施

【主な取組】

- ・全職員に「デザイン思考」と「デジタル技術」の研修会を実施
- ・「デジタル技術」の研修では、実際に生成AIに触れることによる職員の理解度の深化

【課題】

- ・「デザイン思考」についての職員参加型のワークショップを実施
- ・最先端のICT機器に触れることによる知識の更新

成果普及・情報発信

【主な取組】

- ・中種子町立歴史民俗資料館において、企画展「ミライの種子島」展を開催し、作品や成果物を展示
- ・一日体験入学や学校訪問で来校した中学生に対し、生徒による学科紹介を実施
- ・公式インスタグラムの運用開始

【課題】

- ・コンテスト等への参加により、本学科の取組を発信
- ・地域イベントや新聞を用いた情報発信